

■自転車利用環境の現状と課題

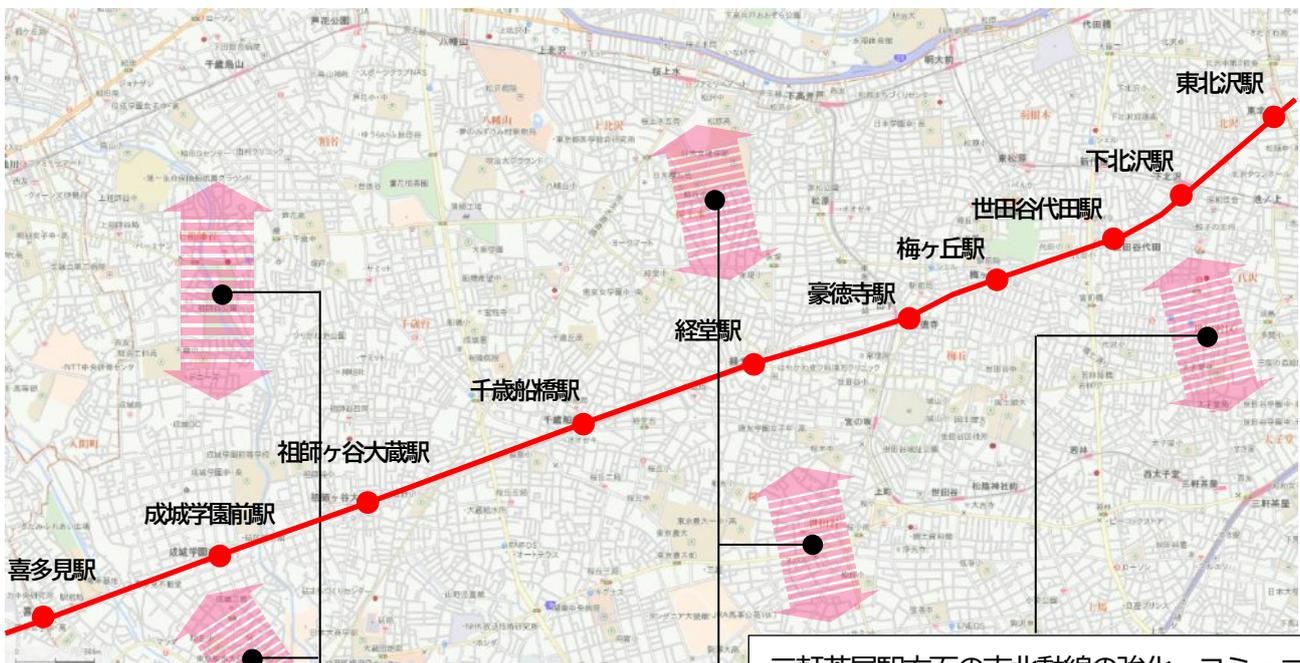
東北沢駅から世田谷代田駅間で行われていた連続立体交差事業及び複々線化事業が、平成30年度（2018年度）に完了しました。先だって連続立体交差事業が完了した梅ヶ丘駅～喜多見駅については、鉄道事業者により鉄道高架下空間を利用して駐輪場が整備されています。

東北沢駅、下北沢駅、世田谷代田駅については、地下化された鉄道敷の上部利用について、利便性の高い駐輪場を鉄道事業者と連携して整備していくとともに、駅周辺まちづくりの進捗にあわせて自転車の快適な利用環境を確保します。

また、区内の南北動線の中心に位置する経堂駅のレンタサイクルポートの利用率は130%以上（令和元年度実績）と区平均より高いことから、今後もニーズを踏まえて、南北動線を踏まえた利用環境の整備を図る必要があります。

■対応の方向性

駅ごとの地区街づくり計画や地域の変化の方向性を踏まえ、鉄道上部利用においては鉄道事業者と連携し、またコロナ禍の影響による利用実態や駐輪需要を踏まえ、新たな駐輪場の整備を検討します。また、大型自転車の利用需要に対し、既存駐輪場の対応を進めます。



千歳烏山駅、二子玉川駅方面の南北動線の強化、コミュニティサイクルや民間シェアサイクル導入等により、利用しやすく、安全安心な自転車利用環境の形成を図ります。

三軒茶屋駅方面の南北動線の強化、コミュニティサイクルや民間シェアサイクル導入等により、利用しやすく、安全安心な自転車利用環境の形成を図ります。

桜上水駅方面、桜新町駅方面の南北動線の強化について、コミュニティサイクルの利用促進を図るとともに、民間シェアサイクル導入等により、利用しやすく、安全安心な自転車利用環境の形成を図ります。

資料：「せたがや iMap」を基に作成

■自転車利用環境の現状と課題

下北沢駅周辺は、若者をはじめ多くの人が回遊でき、個々の魅力的な商店街や劇場などの商業・文化等の機能が充実し、区を超えた広域的な交流の場として、都市整備方針において、「広域生活・文化拠点」に位置付けられています。

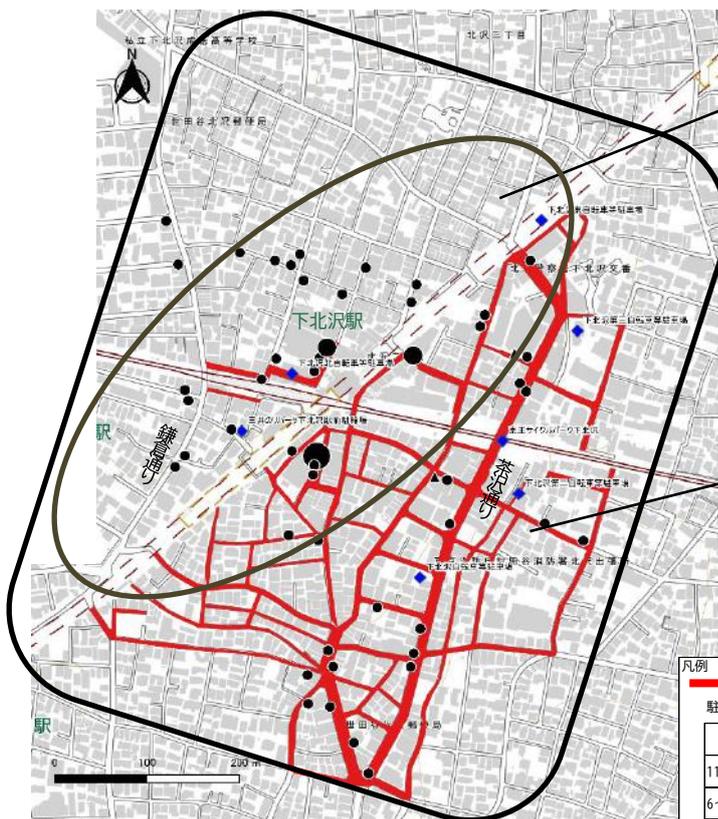
下北沢駅は乗換駅かつ急行停車駅で、乗降客数が多い駅であります。乗り換え客の占める割合も高いことに注目する必要があります。

小田急電鉄の連続立体交差事業にあわせた周辺整備により、一定程度の駐輪場は整備されたものの、特に夕方や休日を中心として依然として乗入台数に対して整備台数が不足しており、また放置自転車が多く見られる状況です。令和元年度の放置自転車撤去台数は2,800台と区内では多い状況が続いています。

細く入り組んだ道路は、個性豊かな個店が多いまちの魅力とあいまって、高い回遊性と賑わいを誇る一方、自転車・自動車の交通量増への対応については課題を残しています。

これらのことを踏まえ、買い物利用や来街者の自転車への対応を図りながら、良好な歩行環境を保てるよう、バランスの取れた駐輪環境の整備を進める必要があります。すでに小田急電鉄の下北沢駅の地下化が完了しており、今後は駅前広場や計画道路の整備、周辺の建て替え等が進むこととなります。こうしたまちの変化にあわせて、区や鉄道事業者による新たな駐輪場の整備、既存駐輪場の有効活用、附置義務駐輪場の効果的な整備等を誘導するとともに、これらの駐輪場の適正配置等により、自転車と歩行者（車いすやベビーカー等を含む）、自動車等の適切な共生を図る必要があります。

■対応の方向性



連続立体交差事業及び複々線化事業等によるまちの変化にあわせ、またコロナ禍の影響による利用実態や駐輪需要を踏まえ、区や鉄道事業者等による利便性の高い新たな駐輪場の整備を検討します。

まちの魅力である回遊性を確保しつつ、歩行者、自転車、自動車が適切に共生できるよう、駅前広場や計画道路の整備、周辺の建て替え等にあわせ、附置義務を含む駐輪場の整備や適正配置等を図ります。

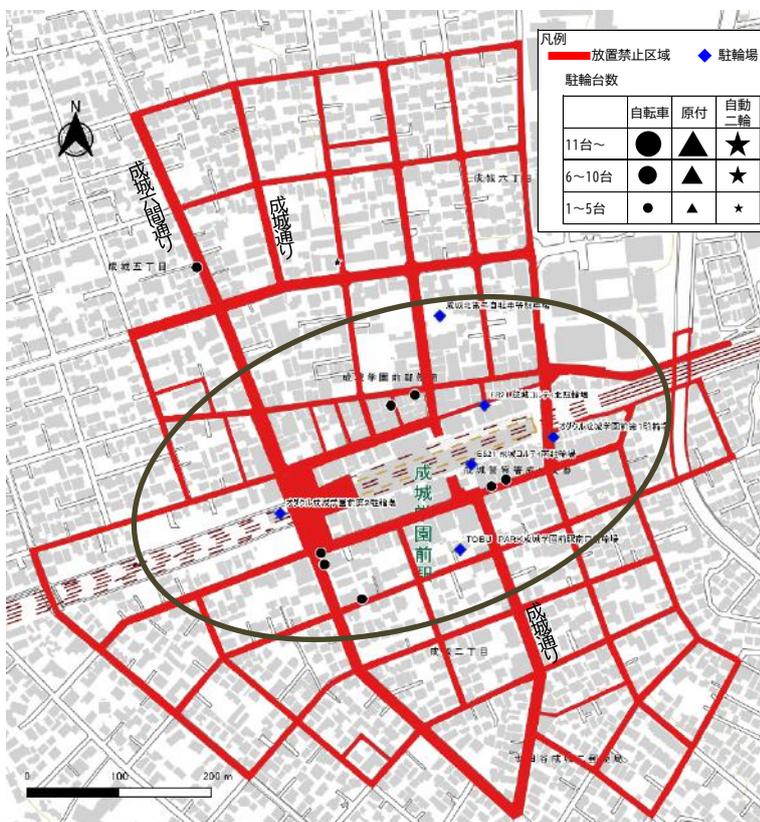
駐輪台数	凡例		
	自転車	原付	自動二輪
11台～	●	▲	★
6～10台	●	▲	★
1～5台	●	▲	★

■自転車利用環境の現状と課題

成城学園前駅周辺は、駅西口の駅前広場や砧区民会館、まちの玄関口となる複合的な駅ビル等が整備され、商業等の機能が充実し、区民の交流の「核」であるとともに、地域外に居住する区民も多く利用する拠点として、都市整備方針において「主要な地域生活拠点」と位置付けられています。

かつては、駅前の商業施設の周辺に自転車等の放置がありました。駐輪場の整備台数の充足や、レンタサイクル、民間シェアサイクルの導入により、放置自転車の台数は減少しました。

■対応の方向性



電動アシスト自転車、チャイルドシート付電動アシスト自転車等の大型自転車に対応した駐輪場の設備更新を行います。

駅前の放置自転車を既存の駐輪場へ誘導するため案内板などを活用します。